

印西市地域福祉計画策定に向けた地域懇談会

実施報告書

令和2年3月

内容

1	地域懇談会の目的・プログラム	1
2	座談会の開催結果・目次	1
—	各地区の開催結果について ① 座談会の概要 ② 座談会での主な意見	
3	地区ごとにあがった課題の一覧比較	34
—	① テーマ選択について ② テーマごとの出た意見の分野について	

1 地域懇談会の目的・プログラム

地域福祉は、行政が取り組むことはもちろんですが、市民のみなさんが主体となって活動することが重要となります。そこで、地域で実際に活動されている市民のみなさんに、日頃の活動から感じられている地域の現状や課題を念頭においていただきながら、課題に対する解決策のアイデアを出し合ってもらい、そのアイデアを次期計画の中に盛り込むことで、今後の実践へとつなげ、広げていくことを目的に実施しました。

各地区のプログラムについては、以下の通り実施しました。

地域懇談会 プログラム		
あいさつ		始まりにあたってのごあいさつを行いました。
オリエンテーション		地域懇談会の目的・進め方について説明しました。
地域 懇談会	第1ラウンド	テーマについて、アイデアや意見、重点的に取り組むべきことを、話し合いながらフセンに書き出しました。
	第2ラウンド	フセンの内容を読み上げて共有しながら、模造紙に貼り付けました。同じような分野のことを選び分けて分類しながら、課題やアイデア等について整理を行いました。
	発表準備・発表	テーブル内で多く出た意見や議論の内容について、何を発表するかをグループで話し合い、各テーブル3～5分で発表者が発表をしました。
おわりに		事務局より、ごあいさつを行いました。

2 座談会の開催結果・目次

- (1) 木下地区 P.2 ～ P.5
- (2) 小林地区 P.6 ～ P.9
- (3) 大森・永治地区 P.10 ～ P.13
- (4) 船穂・牧の原地区 P.14 ～ P.17
- (5) ニュータウン中央北地区 P.18 ～ P.21
- (6) ニュータウン中央南地区 P.22 ～ P.25
- (7) 印旛地区 P.26 ～ P.29
- (8) 本埜地区 P.30 ～ P.33

各地区について、以下の内容を掲載しています。

- ① 座談会の概要
- ② 座談会での主な意見

(1) 木下地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年1月9日（水） 参加者数：14名

会場：総合福祉センター

木下地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

木下地区では、3グループともに「地域の集いの場」についての議論が多くみられました。この中で、グループAでは、「みんなで課題を解決する」「生きがいとする」ことが、グループBでは「コミュニケーションの場の設定」が、グループCでは「人材の確保」「定期的な交流」が重要なこととして挙げられています。

また、地域性として「移動・アクセス」に関する議論が多くなされ、買い物・通院のためのバスをはじめとした足の確保や、買い物難民や孤立の防止に関連した取り組みとして配食サービスの提供について、課題・アイデアが挙げられました。

グループAとグループBでは、ゴミ出しに関しての話題が出ました、高齢化に伴い、ごみ集積所へのゴミ出し支援が必要だという意見が挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
地域の集いの場	課題	対人関係が苦手で、行事に誘っても参加してもらえない人がいる。
		地域の行事に出てくる人が決まっている。
		声かけ合いができない。
	良い所	田舎の強みとして、団結力がある。
		苦情をあまり耳にしない
		地域に住んでいるお互いのことを知っているのも、困りごとがあってもすぐに手助けができる。
	アイデア	課題をみんなで解決する。
		何かのあとには必ずお茶をする・話をする・笑う。
		地域の役に立つことを生きがいにする。
買い物施設へのアクセス	課題	お店が遠い。
		車に乗れない高齢者にとっては買い物が不便。
		バスの本数を増やしてほしい。
	アイデア	ふれあいバスをもう少し多くする。
		バスの停留所を多くする。
町内会	課題	一人暮らし高齢者が多く、町内会での対応が大事なのではないかな。
	アイデア	町内会単位で地域福祉に取り組む。
ゴミ出し	課題	集積所が1か所なので、持っていくのが大変。
		庭の隅で燃やしてしまう人がいる。
	アイデア	決められた曜日・時間にみんなでゴミ拾いをする。
地域福祉の推進	課題	地域福祉とは何かを市民に知ってもらうことを始める。
		支部として地域のことをもう少し知る必要がある。

(グループB)

テーマ「地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか」

分野	意見	
地域の集いの場 (全体として)	アイデア	コミュニケーションの場を設定する。
人材の確保	課題	人材の発掘が必要。
	アイデア	仕事を辞めた方にボランティア活動へ加わるよう勧める。
		人材の情報を把握する。
		ボランティア活動中に明るく楽しくしている所を見てもらう。
地域性	課題	新しい住宅地の方々がどのように地域生活を送っているのかわからない。
		通院・買い物の際の交通手段に課題がある。
		地区長への相談について、細かいことが話しづらい。
ゴミ出し	課題	ゴミ集積所の数が少ないと思うのだが、どこへ相談したら良いのか。
高齢者の支援	課題	一人暮らしの方とのコミュニケーションをどうとるか。
		高齢者の中でも、元気にしている人だけが集まりに参加している。
	現状	農村地域なので家でお仕事をしているお年寄りが多い。
	アイデア	一人暮らしの方に、近所で声をかけあうようにする。
		市の健康ちょきん運動・体操の際に、地域ごとに講習会などを設ける。
行政	課題	行政が何をしているか分からない。
		行政がどこまで手をのばしてくれるのか分からない。
	アイデア	行政との情報の共有を進める。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
人材の確保	課題	人手が足りない。
		あとを継ぐ人の育成が悩みである。
		高齢になっても仕事を持っている為、声をかける人が少ない。
		高齢になると自分の時間が欲しい人が多い。
		ボランティア活動に関心が薄い人が多い。
		活動内容が知られていない。
	アイデア	手伝ってくれそうな人に声をかける。
		民生委員と連絡をする。
		町内会との連絡を密にする。
		民生委員の人たちと一緒に活動する。
		若い人に声をかける。
		「地域の集いの場」
		「報酬」
地域の集いの場	アイデア	定期的な交流会を行う。
		サロンなどの集まる場所をつくる。
		土・日や夜など、集まりやすい時間に集う。
報酬	アイデア	ポイント制にする。
		無償ではなく内容によっては少し報酬を出しても良いのではないかな。
配食	課題	配食のお弁当を配達する人たちを募集する。
	アイデア	配食を配達していると高齢者の見守りにつながる。
		配食のついでに、電球の取り換えなどちょっとしたお手伝いができればいい。

(2) 小林地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年2月7日（金） 参加者数：12名

会場：小林コミュニティプラザ

小林地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

小林地区では、3グループともに「情報提供・情報収集」や「困りごとの把握」についての議論が多くみられました。

この中で、グループAでは、「様々な地域活動の場で情報収集を行う」ことが、グループBでは「具体的にどこに相談したら良いか分かるよう情報提供を行う」ことが、グループCでは「アンケートを行う」「一人暮らし高齢者の訪問を行う」ことが重要なこととして挙げられています。

また、グループAとグループBでは、「地域のつながり」「ご近所付き合い」についての議論がなされました。どちらのグループでも「あいさつ」が重要なこととして挙げられています。またこれに関連して、グループCでは「子ども食堂」など「集いの場」が重要なこととして挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
困りごとの把握	課題	困っている人が高齢者なのか子どもなのか知る。
		困っている人がどのような内容で困っているのかを知る。
	アイデア	まちづくり会・さわコミ・貯筋運動・防犯組合・社協事業・子ども守り隊といった様々な場で困っている内容を把握する。
ご近所付き合いの強化	課題	少数家庭が多くなり、地域に活力が感じられない。
		お互い様の気持ちが薄れてきている。
		あいさつの必要性を強く感じる。
	アイデア	あいさつ運動をすることで笑顔をつくる。
地域活動団体の活動の充実	課題	町内会メンバーが減少している。
	アイデア	町内会の役割を充実する。
		町内会を通した情報提供を充実する。
		地区内の各種団体と連携する。
		社協小林支部の活動を多くの方に知っていただき、参加いただく。
高齢者・障がい者の支援	アイデア	災害時スムーズに行動できない方の見守り・助け合いを大切にする。
		町内ごとの高齢者・障がい者の見守り活動をする。
		老人会等を通した情報提供を行う。
子どもへの支援	アイデア	健全育成のための見守り活動を大切にする。
		子どもたちへの声掛けを行う。
ボランティア活動	課題	ボランティア活動のグループ同士の連携が必要。
	アイデア	ボランティア活動の数を増やす。
		ボランティアの指導者を増やす。

(グループB)

テーマ「地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか」

分野	意見	
地域のつながり	課題	高齢者クラブ等に参加できる人とできない人がいる。
		町内会から退会等で離れてしまっている高齢者がいる。
		地域のつながりを自ら求めない高齢者がいる。
		体操・サークル・高齢者クラブ等の地域の集いの場に参加していない人への支援が必要。
	アイデア	顔を見たらあいさつできると良い。
		町内会の活動になるべく参加できるような仕組みを作る。
情報提供・情報収集	課題	手助けを必要としている方がわからない。
		どんな支援をして欲しいのか等、聞く機会が少ない。
		孤立している高齢者には情報が入りにくい。
	アイデア	具体的にどんな時にどこに支援・手助けを求めたらいいのか分かるようにする。
		正しい情報を必要な時に得られるようにする。
災害時	課題	災害時の避難に支援をどのようにするか。
	アイデア	災害時に避難したかどうかの確認の方法を決める。 (家の前にハンカチを置く 等)
		災害の際の避難シミュレーションを何度も行う。
移動手段	アイデア	足が無く移動手段が欲しい人にも気軽に使える移動手段があるといい。
その他	アイデア	高齢者と同居している家族が気楽に相談できる場があれば良い(行政等は敷居が高い)。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
人材確保・活用	課題	年齢の若い人（30～50 歳）で活動ができる人が欲しい。
	アイデア	活動を土曜日・日曜日にする。
		若い人が来られるように交流会を開く。
		ボランティア参加へのハードルを下げるため、地域イベントに参加してもらう。
		子どものころからボランティア活動に参加してもらい、ハードルを下げる。
		小・中学生に授業の一環としてボランティア活動に参加してもらう。
		地域ボランティアをポイント制にする。
		地域の方に、得意とすること・できることのアンケートをとる。
		趣味を生かしてもらい、ともに楽しんでもらう。
地域活動団体のつながり	アイデア	地域内の各種団体の横のつながりを密にする。
		社会福祉法人と協力・連携する。
町内会	課題	町内会へ参加しやすい環境を作らなければならない。
	アイデア	町内会の行事で交流の機会を設ける。
		町内会の班を細分化して、となり近所の状態が分かるようにするといいい。
情報収集	課題	地域の情報、何に困っているかを集めるにはどうしたら良いか。
	アイデア	何に困っているか、アンケートをとる。
		一人暮らしの高齢者を定期的に訪問する。
集いの場	アイデア	集いの場をひらく。
		子ども食堂が欲しい。

(3) 大森・永治地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年1月10日（金） 参加者数：25名

会場：おおもりまちづくり会館

大森・永治地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

大森・永治地区では、3グループともに「交通手段」についての議論がみられました。

この中で、グループAとグループBでは「ふれあいバス」が、グループCでは「運転ボランティア」が、取り組むべきこととして挙げられています。

また、グループAとグループBでは、「地域のつながり」「ご近所付き合い」についての議論がなされました。どちらのグループでも「声掛け」「顔の見える関係」が重要なこととして挙げられています。グループCではボランティア活動の内容の充実・活動の周知や人材確保について多く意見が挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
近所付き合い 普段の交流	課題	若い人で、隣の人との話し合いがない。
		近隣の交流がない。
		みんなで支え合うという意識が薄れている。
		近所同士の付き合いが苦手。
	アイデア	町内会で話し合えることが大切だと思う。
地域イベントでの交流	課題	イベントに参加してもらうにはどうしたら良いか。
		町内会の行事に出てこない人が多い高齢者が多い。
		地域の行事があっても関心の薄い人が多く、参加するのは同じ人が多い。
		地域の交流行事がない、参加しない。
	アイデア	地域のイベントで子どもと高齢者が一緒にできるようにする。
困りごとの把握	課題	一人暮らしの高齢者の困りごとの状態の把握が必要。
		困っている人がいるかどうかわからない。
		外に出るのが苦手な高齢者を見つけるのが難しい。
		困っていてもどこまで相談したり助け合えたりするのかわからない。
		困りごとを言わない人がいる。
交通手段	課題	独居で買い物ができない人がいる。
		田舎の方までバスが来ず、交通手段がないため、高齢者は街に出られない。
		病院が遠い。バスがない。
ゴミ出し	課題	ゴミ出しのルールを分かってくれない人がいる。
		ゴミ出しのルールが守られていない。
	アイデア	集合住宅では、大家さんからゴミ出しの説明をしていただく。
		地域で資源物回収を行うことで、資源を守ることになるとともに、収入を得ることができ防災・イベントなどに利用できる。
行政	課題	困ったときに、行政のどこへ相談すればいいのかわからない。
		行政の政策が伝わっていない。
		地域への予算が十分でない。

(グループB)

テーマ「地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか」

分野	意見	
地域のつながり	課題	高齢者世帯が多い。
		若い人の減少で手助けする人がいない。
	アイデア	特に一人暮らしの方へ声掛けをする。
		日常から声掛けをして、顔の見える関係を作る。
		毎日あいさつをする。
交通手段	課題	車・免許がない方への手助けを行う。
		車の運転ができないと買い物に行けない。
		免許証返納の対策。
		ふれあいバスが不便。
	アイデア	ふれあいバスの本数を増やす。
夜間の見守り・交通事故	課題	夜間の見守りが必要。
		老人の交通事故に注意。
就労	課題	高齢になり仕事に行けなくなってきた人がいる。
ゴミ出し・掃除	課題	ゴミ出しができない。
		一軒家の一人暮らしで生活が不便。
	アイデア	ゴミ出しが大変な高齢者に対して支援を行う。
		ゴミ出しなど、近所の人ができる手助けをする。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
仲間づくり	課題	次の担い手が欲しい。
	アイデア	近所へ声掛けをする。
		募集をする。
		若い人を誘う。
		まわりの人を巻き込んでいく。
		近所へ声掛けをする。
		集まりやすい時間に集まるようにする。
活動内容の充実	アイデア	楽しい活動にする。
		業務感を少なくする。
		話し合いの場を多く作る。
		何かしらの特典があるといい。
		高齢者が子どもに書道を教える。
		活動の発表の場があると良い。
活動の周知	課題	どのような活動があるのかわからない。
	アイデア	活動の窓口を明確にする。
		活動の内容を広く知らせる。
		地域活動やボランティア活動の必要性の啓発を行う。
活動拠点の整備	課題	休校となった学校の活用。
	アイデア	空家や学校を使って活動できる場所を作る。
交通手段	課題	出かけるにも足が無い。
	アイデア	運転をするボランティアがあれば良い。

(4) 船穂・牧の原地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年1月15日（水） 参加者数：20名

会場：ふれあい文化館

船穂・牧の原では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

船穂・牧の原地区では、3グループともに「行政との連携」についての議論がみられました。

この中で、グループAでは「行政側の姿勢」が、グループBでは「地域住民や地域の代表者と、行政の担当者との密な連携」が、グループCでは「組織づくりの援助」や「ポイント制度の導入」が、重要なこととして挙げられています。

また、3グループともに「地域の集いの場」や「見守り」といった分野での議論がみられました。「活動を継続させる」「実際に身体を動かして活動する」「催し等に参加して地域のつながりを作る」など、地域活動を活性化させることが重要なこととして挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
近所付き合い 普段の交流	課題	地域（となり）の事に無関心。
		個人情報保護の法律が足かせとなっている。
		自治会・町内会の負担が大きく、加入者が減少している。
		ニュータウン地区での住民のつながりが弱い。
	現状	児童と地域住民のふれあいのために、小学校区にて「あいさつ運動」を実施している。
	アイデア	どんな生活をしているか知ること。
		何に困っているのかを知ること。
		会った時にあいさつをする。
		食料・野菜などのお裾分けをする。
集いの場	現状	支部社協として「ふれあい茶房」を実施しており、参加者の交流がある。
		町内会主催のコスモス祭りは、カラオケや子どもたちが楽しめるゲーム（金魚すくい・くじ）等で活況を呈している。
	アイデア	たくさんのイベントを企画する。
		一つ一つの活動を継続させることが大切。 声をかけてイベントに参加してもらう。
町内会	アイデア	各町内会への働きかけ、啓蒙の工夫。
		町内会の責任者同士の情報交換の場の設定。
防災	課題	自主防災組織はあるが、実際に機能していない。
	アイデア	訓練を実施し、防災意識の向上につなげる。
生きがい・健康づくり	目標	健康志向。
		食事習慣を見直して生活習慣病を予防する。
		趣味を続行する。
行政	課題	国・行政のやる気が必要。
		政治家の意識改革が必要。
		予算が必要。

(グループB)

テーマ「地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか」

分野	意見	
自治会・近所付き合い	課題	団地の草むしり・大掃除に参加する方がいない。
		自治会の加入者が減少し、活動ができない。
		団地におけるペットの飼育について、行政・専門家から支援を行ってほしい。
	アイデア	お互いに顔の見える関係作りができるようにする。
ボランティア活動	課題	ボランティア活動が少ない。
		地域のボランティア活動に対して、行政側の支援体制が無い。
	アイデア	ペーパーベースよりも、実際に地域に出て動く。
子どもの見守り・居場所	課題	学童保育のあとの居場所が課題。
		子どもたちの放課後の居場所づくりについて、地域で支援をするのか。
		子どもの見守りを大切にしたい。
		朝食を食べずに登校する子どもがいる。
交通手段	課題	団地における階段の上り下りが不自由な高齢者がいる。行政から買い物の支援を行ってほしい。
	アイデア	社協に市のバスを貸してほしい。
住民に身近な行政	課題	行政の活動について、分からないところが多い。
		役所の情報が少ない。
	アイデア	行政の職員が積極的に地域において活動する。
		市の担当職員が担当地域を把握する。
		役所についての情報提供を行う。
		行政側からのアプローチを行う。
		子ども・障がい者の支援拠点としての、地域包括支援センターの機能強化。
地域と行政の交流・連携	アイデア	地域の代表者の会議に市の職員も参加してほしい。
		地域の代表者と市の担当職員とのコミュニケーションをとる。
		行政と自治会、町会が密接に交流し、地域の情報収集や問題点の把握をする。
		市の職員が地域の行事に参加してほしい。
取り組み	課題	夏休みのラジオ体操の参加者が少ないので、行政から記念品の支援をしてほしい。
	成功例	ちょきん体操のように行政と地域住民とのかかわりがうまくいっている例がある。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
課題① 人材確保・人材育成	課題	サークルなどの参加メンバーが固定してしまう。
		担い手がない。
		自治会の会員が減少し、役員のなり手がない。
	アイデア	新しく引っ越してきた人に声掛けをする。
		学校においてボランティア活動の教育をする。
		若い人の参加を促す。
		親の世代から子どもへとボランティア活動をつなげていく。
課題② 気軽に参加できる場	課題	活動団体に所属すると、参加できないときに申し訳ないという声を聴く。
		どんな活動をすれば良いかわからない人がある。
		ボランティア活動をするときにどこに連絡をとったら良いかわからない。
	アイデア	ボランティアを特別なものとして捉えず、自分にできる範囲のことからはじめる。
		気軽に参加できるよう、開放的にする。
		一つの活動に参加した人に、別の活動を紹介して、参加の機会を増やす。
		催しに参加して顔見知りを増やす。
		日常の中での自分の困りごとを探る。お茶会などでの話題から身近な問題を抽出する。
		高齢者がいつでも集えるような場所が近くにあると良い。
PR・広報	アイデア	広報や掲示で、ボランティア活動を種類ごとに知らせる。
		ボランティアが助け合いにつながっていることを知ってもらう。
		ボランティアの楽しさを知ってもらう。
地域団体の相互連携	アイデア	市が組織づくりの援助をする。
		地域の音楽会等で地域の団体のつながりを強めていく。
報酬・ポイント制	アイデア	市でボランティア活動のポイント制度を取り入れ、援助を受ける際にポイントを使えるようにする。

(5) ニュータウン中央北地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年2月5日（水） 参加者数：14名

会場：中央駅前地域交流館

ニュータウン中央北地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

ニュータウン中央北地区では、3グループともに「住民の困りごとを知る」「地域の実情・課題を整理・把握する」ことについての議論がみられました。

この中で、グループAでは「さまざまな主体との連携」が、グループBでは「近所でのあいさつや声掛け」が、グループCでは「アンケートなどによる把握」が、重要なこととして挙げられています。

また、グループBでは高齢者に対する支援が、グループCでは共働き・子育て世代の地域への参加についての議論がみられました。これに関連して、グループAとグループCでは「人材資源の発掘」についてが取り組むべきこととして挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
課題の整理・把握	課題	取り残されている人の発見。
		地域の問題点の発見。
	アイデア	地域住民の実情を知る。
		個人が困っていることを知る。
		社協・包括・民生・高齢者クラブ等で行っている、既にある取組と連携する。
		生協・新聞・郵便等と連携する。
地域の コミュニケーション	課題	普段の会話から相手の性格を理解することが必要。
	アイデア	よつば昼食会・よつば茶房・ちょきん運動と連携する。
		福祉について住民が考えていることを知る。
		町内会・自治会管理組合・自主防災と連携する。
	最終目標	地域に愛着を持ってもらう。
情報提供	課題	取り出しやすい情報の提供が必要。
		情報提供による人材資源の発掘が必要。
	アイデア	ホームページや広報誌を充実させる。
		新聞報道を参考にして、社会の実態を理解する。
		行政と連携し情報提供を行う。

(グループB)

テーマ「地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか」

分野	意見	
近所付き合い・声掛け (自助)	アイデア	困ったことが無いか聞いてみる。
		近所の高齢者の方と、あいさつから始める。
		ゴミ出しについて、方法などを伝える。
		立ち話などの機会をみつけて話をする。
		支援が出来そうなことを、何でもいいので言ってもらいたく。
地域活動 (共助)	現状	敬老の日の交流会を催している。
		ちょきん運動を週1回行っている。
		茶話会を月1回催している。
		マンションにおける活動で、中庭の整備に力を入れている。
	アイデア	社協の行事へ誘ってみる。
		集会所などの行事へ誘ってみる。
		高齢者クラブで親切な手助けを行う。
	アイデア	買い物が困難な人への支援を検討する。
		社協の実施する有償ボランティア・ゆうゆうサービスを活用する。
各種団体と行政の連携 (公助)	アイデア	自治会と行政がタイアップする。
		地域センターとの仲介（橋渡し）を行う。
		市が資金援助を行うなど、支部社協への支援を強化する。
		民生委員と行政が連携する。
		総合拠点を充実させる。
地域福祉・社会福祉とは	課題	町内会で、社会福祉とは何かを聞かれた。

※上記の斜線部分のアイデア（「買い物が・・・」と「社協の実施する・・・」）につきましては、「地域活動（共助）」と「各種団体と行政の連携（公助）」の両方が考えられることから、斜線とさせていただきます。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
参加しやすい環境づくり	課題	共働きが多い地域性から、ボランティア活動ができる時間がない。
		子育て世代が多いことから、ボランティア活動ができる時間の余裕がない。
		ボランティアの敷居が高いと感ずることがある。
	アイデア	交通費・食費の援助など、参加しやすい環境づくりを行う。
		無理なくお手伝いができる活動にする。
		中心的に活動する人同士で横のつながりを持ち、良い所などの情報共有を行う。
		大・中・小のボランティア活動の内容を洗い出す。
参加意欲の向上	課題	町内会の福祉ボランティアに関心がない。
		住民のボランティアへの参加意欲が低い。
	アイデア	災害のことを考える機会をつくることで、参加意欲を高める。
		アンケートなどで活動したいことを調査する。
		活動を有償化する。
		ボランティア活動についての教育を行う。
		地域に対する行政からの支援・指導を行う。
		過去の職業を生かせる活動とする。
人材の確保	課題	男性の活動への参加が少ない。
	アイデア	自治会のイベント等で、ボランティア要員を発掘する。
		町内会にて多くの方が参加できる催しを行う。
		男性向けの活動をする。
		参加したことのない人に声をかける。
		どのようなボランティア活動ができるのか調査し、従事できる人を把握する。
		社協の事業への参加を誘う。
地域活動の現状	現状	高齢者クラブ、自治会、健康麻雀、木刈4丁目喫茶、支部社協、民生委員、自主ボランティア等において地域活動が行われている。

(6) ニュータウン中央南地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年1月14日（火） 参加者数：13名

会場：サザンプラザ

ニュータウン中央南地区では、2グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか
グループB	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

ニュータウン中央南地区では、2グループともに「行政との連携」についての議論がみられました。

この中で、グループBでは「地域と行政を結びつけるための拠点・話し合いの場」が、グループCでは「話し合いの機会」とともに「ネットワークの形成」が、重要なこととして挙げられています。

また、2グループともに、「活動拠点」についての意見がみられ、グループCでは「設備の充実」や、「集いの場としての機能の充実」が重要なこととして挙げられています。

地域性としては、グループCで「外国人とのかかわり」についての意見がみられました。具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか」

分野	意見	
連携とは何か	疑問点	連携とは何か。
		連携が高まっているとはどんな状態か。
		目標とする福祉のレベルは。
	課題	行政が地域にどこまで期待するのかを明確にしてほしい。
		行政に住民の目線を持ってほしい。
		相互協力の前に相互理解が必要。
		住民が何をして行政が何をするのかの、役割分担を明確にする必要がある。
地域と行政の連携	課題	行政の地域担当が必要。
		行政の窓口が分かりづらい。
		住民活動を具体的に支援する仕組みが必要。
		地域では困難なことを行政で取り組んでほしい。
	アイデア	地域と行政を結びつけるための拠点を作る。
		話し合いの場を作る。
		住民活動を評価する仕組みが必要。
現状の把握	疑問点	印西市より進んでいる地域は何が違うのか。
		住民の要望で対応できなかったことは何か。その理由は何か。
	アイデア	相互協力の推進にあたって足りないものの分析・調査を行う。
		他の自治体・地域でうまくいっている所の話聞く。
具体的な地域活動	課題	活動にあたっての事務所・拠点が欲しい。
		ちょきん運動ができる広いスペースが欲しい。
	アイデア	身近な相談所をつくる。
		地域でお助け隊を結成する。
		学校教育の中で親が子どもとともに学ぶ。
		住民にアンケートをとる。

(グループB)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
活動拠点の整備	課題	拠点の確保。
		活動拠点の設置。
	アイデア	拠点を作り、コーディネーターを配置する。
		公共施設を活用する。
		拠点にパソコン・電話を設置する。
		4・5人で集まって談笑したり、困りごとの相談をしたりできる場所を作る。
近所付き合い	課題	その地域に合ったボランティアが何かを知る必要がある。
	アイデア	ご近所同士のつながりを広げていく。
		声掛けなど、顔と顔がつながる工夫を考える。
		自分にできる範囲で困っている人の相談に乗る。
地域活動における連携	課題	コーディネーターの確保。
		自治会との連携が必要。
	アイデア	困りごとのある方とボランティアをしようと思っている方をつなげるシステムを作る。
		ボランティアグループ同士での交流や情報共有を行う。
行政等との連携	課題	行政による、現場の後押しが必要ではないか。
		高齢者・子どもが、町内ごとにどのくらい住んでいるのかなどのデータが欲しい。
	アイデア	市の福祉課や包括・社協との連携を行う。
		行政・社協・民児協・高齢者クラブ等のネットワークを形成する。
		市と公団、市民が時間を作って問題点などを話し合う。
		イオンなど、民間企業の協力をお願いする。
人材・若い力の確保	課題	ボランティア＝無報酬・辛い、というイメージを変えたい。
		老々介護と言われている中、福祉においても「老々福祉」「老々ボランティア」の現状を感じている。
	アイデア	ニュータウンにはボランティアをしたい人がたくさんいるので、その情報を把握し集約する。
		広報誌以外のものも利用し活動をPRする。
		若い人がボランティア活動に参加しやすくなる取り組みを行う。

(グループB・続き)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
ボランティア教育	課題	小・中・高生が町内会に参加したい。
	アイデア	学校の授業で地域活動の必要性について教える。
		市（福祉課）が小・中・高生に授業の中で直接地域の実態を伝える。
		中学生のボランティア参加を推進する。
具体的な取り組み	課題	外国から働きに来ている方とのかかわり方・コミュニケーションの仕方。
		「ワンコイン」が複雑すぎて使いづらいため、見直しが必要。
		買い物難民支援に関する情報が十分伝わっていない。
		社協で使える自動車を市が貸してほしい。
		寄付・バザー・市からの援助など、活動に必要な財源の作り方。
	アイデア	高齢者の見守り活動を強化する。

(7) 印旛地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年2月26日（水） 参加者数：16名

会場：ふれあいセンター印旛

印旛地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

印旛地区では、3グループともに「交通手段」についての議論がみられました。

この中で、グループBとグループCでは「医療機関までの交通手段」「買い物」が、また、グループBでは「市役所へのアクセス」が重要なこととして挙げられています。

また、3グループともに「地域活動の推進・活性化」については、グループAでは「趣味や専門分野の活用」が、グループBでは「地域での行事を増やすこと」が、グループCでは「見守り活動」が重要なこととして挙げられています。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
近所付き合い・ 地域での集いの場	課題	ご近所同士の交流・情報交換が必要。
	アイデア	気軽にいつでも集まれる場所を作る。
		誰でも集まって情報交換ができる場所を作る。
		気軽に声掛けができるようなご近所づくり。
		無料で集まれる場所の確保。
子育て世代への支援	課題	子育て世帯の親を一人ぼっちにしない方法。
	アイデア	ママ友やPTA、お掃除会などで同年代の人たちのつながりを深める。
高齢者への呼びかけ	アイデア	独居の方や昼間独居の方に、外へ出てきてもらう呼びかけを行う。
		高齢者の困りごとを聞けるような地域づくりを行う。
地域活動の活性化	課題	ボランティアの高齢化を改善するにはどうすれば良いか。
	アイデア	趣味や専門分野を活用できるよう、登録する。
		ボランティア活動がしやすい環境づくりを行う。
		若い人たちに参加してもらうよう声掛けする。
		福祉活動についての教育を子どもの時から行う。
		無償ではなく、ボランティア貯金制度にする。
拠点づくり	アイデア	地域の拠点が無いので作る。
		支部活動の拠点を作る。
交通手段	課題	交通手段がない

(グループB)

テーマ「地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか」

分野	意見	
近所付き合い・声掛け	課題	高齢者ではない方への支援は不要か。
		障がい者の存在が分かりにくい。どのような支援が必要か分かりにくい。
		見守りカード・支援を断る方は、自立しているのか。
		近所付き合いの大切さを理解してもらうためにはどうすれば良いか。
		自然災害時の助け合いについて、地域としてどのようなことができるのか。
	アイデア	認知症の（疑いがある）方への声掛け。
		認知症の方の家族の支援。
		隣近所で一人暮らしをしている人の見守りを行う。
地域における連携	課題	民生委員がサポートする範囲はどこまでか。
		地域の自治会と民生委員との関係はどうすべきか。
		民生委員の存在をもっと地域の方々にしてもらいたい。どのような方法があるか。
		地域住民と民生委員の協力体制。
	アイデア	近隣住民、民生委員との情報共有・連携。
地域活動の推進	課題	自治会の行事に参加してもらうにはどうしたらよいか。
		自治会の活動を盛んにするにはどうしたらよいか。
		老人会に加入している人としていない人での格差が生じている。
	アイデア	地域での活動を広め、高齢者の参加を促す。
		地域での行事（清掃・ゴミ集め・懇談会など）を増やしていく。
介護保険制度の浸透	課題	介護保険制度・利用にあたっての説明・申請介助。
		介護職員の対応。
		老々介護や生活困窮者の増加。
		医療費の増加。
	アイデア	地域包括支援センターの周知活動・情報提供を行うことでサービスへつなげる。
交通手段	課題	直接市役所に行く交通手段がない。
		買い物の際に、バスに乗るのが大変。
		医療機関にひとりで行けない。
		交通手段の確保。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
広報活動・活動への勧誘	課題	社協の活動内容を知らないため、どんな活動があるかわからない。
		福祉ボランティアへの関心が薄い。
	アイデア	具体的な活動内容を知らせる。
		ボランティアは難しくないということを知らせる。
		スマートフォンを活用して勧誘する。
求められる活動 交通手段	課題	老人会の活動と連携する。
		通院支援。
		買い物支援。
	アイデア	独居の方の安全見守り。
人材確保・リーダーの育成	課題	グラウンドゴルフやパークゴルフを頑張っている方に声掛けをする。
		活動の中心になる人がいない。
	アイデア	高齢化によりボランティアの人材が減少している。
行政への要望	要望	活動のリーダー・ボランティアなどを育成する。
		活動拠点や連絡センターが欲しい。
		アンケート等で意見を聞くだけでなく、具体化する。
		立てた計画を実行してほしい。
		ボランティアの意見を反映させてほしい。

(8) 本埜地区

① 座談会の概要

開催日：令和2年1月7日（火） 参加者数：16名

会場：本埜公民館

本埜地区では、3グループに分かれ、グループ毎に下記のテーマで話し合いが行われました。

グループ	話し合いのテーマ
グループA	地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
グループB	地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか
グループC	地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

主な話し合いのポイントは、下記の通りです。

本埜地区では、3グループともに「情報提供・収集」についての議論がみられました。

この中で、グループAでは、「昼間独居の高齢者についての情報」や「困っている人、助けが必要な人についての情報」の把握・共有が、グループBでは「市からの情報を個人まで届けること」が、グループCでは「隣近所に関する情報の把握」が意見として挙げられています。

また、グループBで「本埜地区に合った支援が必要」という意見が出された中で、グループAでは「移動手段」について、またグループCでは現在行われている「給食」や「集会所」をはじめとした様々な取組について、議論がみられました。

具体的な意見については、次のページ以降でグループ・分野ごとにまとめています。

② 座談会での主な意見

主な意見一覧

(グループA)

テーマ「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」

分野	意見	
移動手段	課題	買物、通院等に、現在は自力で運転して行っている人でも、この後運転できなくなったらどうしようと不安。 車がつかえなくなると足がない。
		ひとり暮らし高齢者の買い物支援。
	アイデア	コミュニティバスの本数を増やす。
生活環境の整備	課題	雨が降った際にあふれた側溝のゴミ掃除。
		公園の落ち葉が多い。掃除はするのか。
		散歩中、街灯の無い所が真っ暗で怖い。
	アイデア	外出先のバリアフリー。
		防災の支援。
交流・つながり	課題	家にいるようになると、他人と話しをする機会がなくなる。
		高齢世帯が増えると詐欺に合う人もでてくるかもしれない。情報が入ってこない人、まったく孤独で人との接触がない人等心配。
	アイデア	ひとり暮らし高齢者への傾聴・支援（話し相手）。
		世代を超えた地区の交流。
課題に対する対策	課題	参加意欲を高める事業や、誘い方の工夫が必要。
	アイデア	昼間独居の高齢者等の洗い出し。
		集会所の活用推進。
		困っている人、助けが必要な人についての情報の共有。
		誰かに頼るだけでなく、自分ができる事には積極的に参加してもらう。

(グループB)

テーマ「地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか」

分野	意見	
情報提供	課題	配布物だけでは理解出来ない事が多いと思う。 行政側より積極的に地区に情報を提供して頂きたい。
		市からの情報が個人まで伝わらない。
		問い合わせ先が、よく分からない。
		市からの情報が伝わりにくい。
連携のための機会・方策	課題	住民と行政の間に窓口がないと連携しづらい。
		民生委員さんの負担が大きい。
		地域住民と行政が直接連携する機会がない。
		消防団と住民との関わりが薄くなってきている。
		地域のイベントが市高連の運動会、公民館のまつりくらい。
	アイデア	地域懇談会を定期的に行って行政が行っている現状等の説明をして頂き、なじんで頂く。
		定期的な、行政、福祉等と地域との交流、懇談会等の開催。
		行政及び地域の開催する催し物に参加し、行政と住民との相互交流等を深めていく。
		地域の役員を通じ住民との意見を行政と(社会福祉)深めて行く。
		地域ケア会議を活用する。
		各地区の集会所の活用を推進する(高齢者のいこいの場として活用する。将棋、カラオケ、卓球、麻雀など)。
		産業祭や盆踊りを交流の機会として活用する。
環境づくり	課題	本塾の地域性に応じた支援が必要では。
	アイデア	住み良い環境作りの一環として、茂みの多い所を処分したり、また市で対応できない場合は地域(地区)に支援し、きれいにしたりする。

(グループC)

テーマ「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」

分野	意見	
人手不足・広報	課題	ボランティアを集めることが大変。やりたがらない。
		地域ボランティア活動を知らせる広報がない。活動を知らない人が多い。
		担い手も高齢者ばかり。
		学校支援ボランティアを数年やっているがメンバーが増えない。
		社協に仕事が多すぎるから入る人がいない。
	アイデア	ボランティアだけの広報紙があるといい。
		ボランティアへの協力(参加)の呼びかけを、広報等にのせる。
		オンライン広報が必要。
場づくり・ 現在行っている取組	どんな活動をしているかを多くの人に知ってもらい、ボランティア活動の参加者を増やす。	
	課題	健康寿命を延ばす目的で場づくりが必要。
	現状	ちょきん運動の実施。運動と会話と脳トレで好評。
		茶話会の実施。
		お弁当(ひまわり)給食を作って配っている。楽しみに待っている方が多いのでこれからも続けてほしい。
		滝野5・6丁目で歩いていける集会所をスタートした(近くであつまれるため)。
情報収集	課題	ボランティアに誘いたいが隣近所の人や家族構成等知らない。
		ひとり暮らし高齢者の情報を把握したい。
若い世代への支援 若い世代の人材の活用	課題	ワンオペ育児への支援。共働き家庭の子の安全。
		地域のシニアとその子どもたちとのふれあいが少ない。
	アイデア	共働き家庭の人の土日のボランティアへの参加。
		学校やPTAを通して、父母にボランティアに参加してもらう。
		シニアボランティアによる地域の安全、登校時の見守り。
報酬	課題	ボランティアとはいえ、何かしらの手当てが必要。
	アイデア	担い手を増やすためにポイント制度を導入する。
		ボランティア行事への参加費に公的資金の投入を増やし、参加費を安くする。
		ボランティアへの参加により何か優遇される等の工夫。

3 地区ごとにあがった課題の一覧比較

① テーマ選択について

地域懇談会においては、以下の6つのテーマから、地区ごとに事前に2～3つを選択して議論を行いました。

テーマの一覧
地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか (共通テーマとして、原則全グループが選択)
地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか
地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか
地域の子育て家庭に対して、どのように支援・手助けをしていくか
地域の障がい者やその家庭に対して、どのように支援・手助けをしていくか
隣近所や地域住民の間で問題が生じた場合、どのように解決すべきか
地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか

各地区のテーマについては、以下の表の通り、「地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか」が7地区で、「地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか」が4地区で、「地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか」が4地区で、「地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか」が8地区で選択されました。

テーマ	木下	小林	大森・永治	船穂・牧の原	ニュータウン中央北	ニュータウン中央南	印旛	本埜
地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか	○	○	○	○	○		○	○
地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか	○			○		○		○
地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか		○	○		○		○	
地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか	○	○	○	○	○	○	○	○

② テーマごとの出た意見の分野について

1. 地域として、地域福祉を推進していくためには、どうすればよいか について

「ご近所付き合いの強化」「普段の交流」について5地区、「地域の集いの場」について3地区、「困りごとの把握」「課題の整理・把握」について3地区で議論がみられ、「普段のつながり」が多くの地区で重要だと考えられています。

「具体的な課題」については地区ごとに議論された分野が分かれていましたが、「交通手段」「買い物施設へのアクセス」については4地区で議論がみられました。

意見の分野		木下	小林	大森・ 永治	船穂・ 牧の原	ニュータウン 中央北	印旛	本埜
普段の つながり	地域の集いの場	○			○		○	
	困りごとの把握 課題の整理・把握		○	○		○		
	ご近所付き合いの強化 近所付き合い 普段の交流		○	○	○		○	○
	地域の コミュニケーション					○		
共助の 取り組み	町内会 地域活動団体の活動	○	○		○		○	
	拠点づくり						○	
	地域イベントでの交流			○				
	ボランティア活動		○					
具体的な 課題	生きがい・健康づくり				○			
	ゴミ出し	○		○				
	交通手段 買い物施設へのアクセス	○		○			○	○
	高齢者の支援 高齢者への呼びかけ		○				○	
	障がい者の支援		○					
	子どもへの支援 子育て世代への支援		○				○	
	生活環境の整備							○
	防災				○			
行政・ その他	行政			○	○			
	情報提供					○		
	地域福祉の推進	○						
	課題に対する対策							○

2. 地域住民と行政との連携を高め、相互協力を推進していくためにはどうすればよいか について

「地域と行政の交流・連携」「連携のための機会・方策」について3地区、「行政」「住民に身近な行政」について2地区で議論がみられ、行政とのつながりやそのあり方について多くの地区で重要だと考えられています。

意見の分野		木下	船穂・ 牧の原	ニュータウン 中央南	本埜
普段の つながり	地域の集いの場	○			
	自治会・近所付き合い		○		
	現状の把握			○	
共助の 取り組み	人材の確保	○			
	ボランティア活動		○		
具体的な 課題	地域性	○*			
	交通手段	*	○		
	ゴミ出し	○			
	高齢者の支援	○			
	子どもの見守り・居場所		○		
	取り組み（体操など）・具体的な地域活動		○	○	
	環境づくり				○
行政・ その他	行政	○	○		
	住民に身近な行政				
	地域と行政の交流・連携 連携のための機会・方策		○	○	○
	連携とは何か			○	
	情報提供				○

3. 地域の高齢者に対して、どのように支援・手助けをしていくか について

「地域のつながり」「近所付き合い・声掛け」について全地区で議論がみられ、重要だと考えられています。

「具体的な課題」については地区ごとに議論された分野が分かれていましたが、「移動手段・交通手段」については3地区で議論がみられました。

意見の分野		小林	大森・永治	ニュータウン中央北	印旛
普段のつながり	地域のつながり	○	○	○	○
	近所付き合い・声掛け				
	情報提供・情報収集	○			
共助の取り組み	地域活動の推進			○	○
	地域における連携				○
具体的な課題	災害時	○			
	移動手段・交通手段	○	○		○
	夜間の見守り・交通事故		○		
	就労		○		
	ゴミ出し・掃除		○		
	介護保険制度の浸透				○
行政・その他	各種団体と行政の連携			○	
	地域福祉・社会福祉とは			○	
	その他	○			

4. 地域活動やボランティア活動を活発にしていくにはどうすればよいか について

「人材確保・活用」「仲間づくり」について全地区で議論がみられ、重要な課題となっていることがうかがえます。人材確保のための取組として、「活動の周知」「PR・広報」や「気軽に参加しやすい環境づくり」などについても多く議論がみられた他、今後の活動のより一層の推進に向けた「地域活動団体のつながり・連携」や「行政等との連携」「行政への要望」についても複数の地区において議論がみられました。

意見の分野		木下	小林	大森・永治	船穂・牧の原	ニュータウン中央北	ニュータウン中央南	印旛	本埜
普段のつながり	地域の集いの場	○	○						○
	近所付き合い						○		
	情報収集								○
共助の取り組み	人材確保・活用	○	○	○	○	○	○	○	○
	仲間づくり								
	地域活動団体のつながり・連携		○		○	○	○		
	活動内容の充実			○					
	活動の周知 PR・広報			○	○			○	○
	ボランティア教育						○		
	参加意欲の向上					○			
	気軽に参加しやすい環境づくり				○	○			
	活動拠点の整備			○			○		
	町内会		○						
	報酬 ポイント制	○			○				
具体的な課題	配食	○							
	交通手段			○				○	
	地域活動の現状 具体的取り組み					○	○	○	○
	若い世代への支援・若い世代の人材の活用								○
行政・その他	行政等との連携 行政への要望						○	○	
	情報収集		○						